

「家」のつく四字熟語、いくつイエる？

秋も深まり、すっかり日が短くなりました。そんな夜長の季節には、暖かいお部屋に家族みんなで集まって、たとえばこんな頭の体操で、ワイワイ楽しく過ごしましょう。さあ、あなたはいくつ言えるかな？ 「家」のつく四字熟語。

一家団欒

いっかだんらん

家族が集まって、仲良く談笑したりしながら楽しい時間を過ごすこと。「団欒」は人が集まって輪になって座ること。または、親しい人たちが集まって楽しく過ごすこと。



家給人足

かきゅうじんそく

安定していて豊かな生活のこと。「給」と「足」は、どちらも満ち足りていることを表します。全ての家や人に衣食が行き渡っていて、全て人が生活に不自由ないという意味から、「家ごとに給し人ごとに足る」とも読みます。



家内狼藉

かないろうぜき

家の中がひどく散らかっていること。「狼藉」は乱れていて無秩序なことを意味しています。



家書万金

かしよばんきん

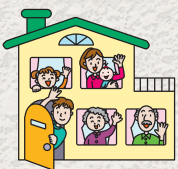
一人で寂しいときに、家族から届く手紙は何よりも嬉しいということ。「家書」は実家からの手紙。「万金」は大金という意味で、極めて価値があることのたとえです。旅先などで一人っきりで寂しいときに、家族からの手紙は大金のような価値があるということから。



修身齐家

しゅうしんせいしか

自身の心がけや普段の行いを正し、円満な家庭を築くこと。「修身」は自身の心と行動を正すこと。「齐家」は不満のないように家庭を整えて治めること。「身を修め家を斉う」とも読みます。



家常茶飯

かじようさはん

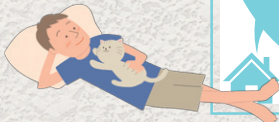
毎日起こるようなよくある出来事のこと。いつもと同じ茶と飯ということで、いつもの食事という意味から。



帰家穩座

きかおんざ

旅に出ていた人が自宅に帰って落ち着くこと。仏教の言葉で、人が本来持っている仏性に立ち返って安らかに暮らすという意味から。



伝家宝刀

でんかのほうとう

家宝として代々受け継がれてきた名刀という意味から、こころ一番ということ以外に使わない切り札のことを言います。



白手起家

はくしゆきか

まったく何も無い状態から事業を起し、一代で繁栄させるという意味です。「白手」は手に何も持っていないこと。「起家」は家を築き立てること。「白手もて家を起す」とも読みます。



いかがでしたか？ なかなか難しかったのではないのでしょうか。ほかにも「住」や「窓」や「屋」などテーマを決めて、みんなで四字熟語を出しあってみてはどうでしょう。ちょっと知的な秋の夜長が、きっと楽しく盛り上がりそうです。